

皆さんこんにちは

この度宮城子ども会育成会連合会の会長になりました小島吉雄と申します。武前会長のもと副会長職を務めて参りましたので、ある程度のご面識はあるのだらうと存じます。

少し長くなりますが自己紹介をさせていただきます。

昭和 30 年東京都の武蔵野で生まれました。新御三家の郷ひろみ、野口五郎、西城秀樹、更には故横綱千代の富士と同期です。所謂昭和時代の人間です。

20 歳の時に父親が転勤で関西に移り、その後就職したのが横浜の事業所でしたので両親とは暮らしていません。核家族の典型のような暮らしでした。東京生まれと言っても住民票があったのは 22 歳までで、仙台市に籍を置く 26 年の方が長くなっています。

自分で言うのもおかしいですが「24 時間戦えますか」時代の猛烈サラリーマンで、しかも転居を伴う転勤だけでも 8 回を数えました。仙台にはロンドンから転勤という乱暴な人事でしたが、そのお陰で今の自分があります。都会っ子を自認していたのに、のんびりと流れるイギリス時間に 4 年間浸るうちに人生観が変わり、仙台でも新川での田舎暮らしを選択しました。横浜に戻った 10 年後、息子を新川分校に入学させるために会社を退職し、以来地域や子ども会には大変お世話になり子育てをしました。

さて、自身今年 66 歳と既に高齢者の新入生です。老人クラブからも勧誘を受けている世代です。なんとなくオリンピック協会の会長人事のゴタゴタと重なってしまいます。こうして会長に推挙いただいたのなら、新しい時代の組織、新しい時代の子ども会を考えていかねばならないと感じています。

昨年実施させて頂いたアンケートの集計を見ますと、子ども会の役員やイベントのお世話が大変だ、という回答が多く寄せられました。

地域や組織の世話人のなり手が少なくなって久しいです。また地域によっては少子高齢化の影響を強く受けている組織もあります。私の息子が通った作並小学校新川分校は昨年廃校になりました。その点では自分自身危機感を感じています。

「新しい時代の」と冒頭申し上げましたが、このコロナ禍で色々な価値観が急激に変わっていると感じになりますか？

もうひとつアンケートを見て驚いた事があります。武前会長や我々役員が仙台市の有給職員だと思っておられる方が半数近くいた事です。責任感と行動力を評価頂いたのかもしれませんが、我々は交通費すら頂いていないボランティアです。ただ今の時代ボランティアが負うべき役割と、有給の職員が担うべき責任をもう少しきちんと線引きせよというご指摘かとも受け取りました。私が社会に出た昭和の時代は、おおらかで多少脇が甘くても笑って済ませる事が出来ました。令和の時代は個人情報、人権、ジェンダー、説明責任、そして新型コロナウイルスです。我々ボランティアの責任範囲を超えてしまいます。組織運営に係わる事務作業も煩雑となり、自宅でコツコツ行うのは大変な負担です。

ここまで私が感じている「時代の変化」をお話し致しました。仙台に暮らして 26 年。お題目は掲げられても武前会長の様に地域に入り込みながら着実に前進させられるような人徳はまだございません。この 1 年、皆様と会話(会話が難しければアンケートなど)を交わしながら方向性を絞りたいと存じます。遅く恵まれた一人息子は新川で育ち今大学 4 年生です。もう少しで子育ては卒業、いよいよ生涯スポーツと決めているサッカーと、ずっと出来なかった音楽バンド活動が老後の目標です。出身地東京都のオーバー 65 歳サッカーリーグに選手登録し、月に一回は遠征試合です。

子ども会での役割責任と平行して、自身のシニアライフの充実にもご理解を頂きながら推進して参りたいと存じます。

最後になりますが、まだまだ先の見えない新型コロナウイルスの脅威の中、健康で豊かな子育てが進められますようお祈りしてご挨拶と致します。